

令和元年度

第2回アンケート調査(いじめ・自殺)結果報告

令和2年1月

福島県立郡山支援学校
いじめ防止対策委員会

[アンケートの質問内容]

自分(じぶん)のことについて、当(あ)てはまるものすべてに○(まる)をつけてください。		
自殺防止に関わる調査	(1)	気(き)になることや悩(なや)んでいることについて
	1	学校(がっこう)や友達(ともだち)のことで、気(き)になることや悩(なや)んでいることがある。
	2	家族(かぞく)や家庭(かてい)のことで、気(き)になることや悩(なや)んでいることがある。
	3	その他(た)のことで、気(き)になることや悩(なや)んでいることがある。
	4	学校(がっこう)に行(い)きたくないと思(おも)う。
	5	いつも悲(かな)しい、苦(くる)しい気持(きも)ちになる。
	6	気(き)になることや悩(なや)んでいることを相談(そうだん)できる人(ひと)がいない。
いじめ防止に関わる調査	(2)	友達(ともだち)関係(かんけい)について
	1	冷(ひ)やかし、からかい、悪口(わるくち)を言(い)われた。
	2	仲間(なかま)はずれにされたり無視(むし)されたりした。
	3	叩(たた)かれたり、ぶつかられたり、蹴(け)られたりした。
	4	お金(かね)や物(もの)をとられたり、おごらされたりした。
	5	物(もの)を隠(かく)されたり、乱暴(らんぼう)に扱(あつ)われたり、壊(こわ)されたりした。
	6	嫌(いや)なこと、危険(きけん)なこと、恥(は)ずかしいことをさせられた。
	7	メールやSNS(エスエヌエス)に、嫌(いや)なことを書(か)かれたり画像(がぞう)をのせられたりした。
	8	いじめられている人(ひと)を見(み)たり聞(き)いたりしたことがある。
9	そのほか、友人(ゆうじん)関係(かんけい)のことで困(こま)っている。	

回答者数は、児童のみの回答、保護者のみの回答、児童と保護者両者の回答のいずれも回答数1として集計している。

小学部	(1)-1	(1)-2	(1)-3	(1)-4	(1)-5	(1)-6	(2)-1	(2)-2	(2)-3	(2)-4	(2)-5	(2)-6	(2)-7	(2)-8	(2)-9			回答者数	配付数	回収率	前年度 回収率
1年	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0			15	15	100%	100%
2年	1	2	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0			6	6	100%	100%
3年	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			10	10	100%	100%
4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			8	8	100%	100%
5年	0	1	3	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0			19	19	100%	100%
6年	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			16	16	100%	100%
計	1	6	5	2	2	3	2	2	1	0	0	1	0	1	0			74	74	100%	100%

回答の概要

【自殺防止に関する調査について】

- ・ 家族との関係、身体的理解、ホームシック等が主な要因。

【いじめ防止に関する調査について】

- ・ いじめとして認知されるものはなかった。

回答者数は、生徒のみの回答、保護者のみの回答、生徒と保護者両者の回答のいずれも回答数1として集計している。

[illegible]

回答者数は、生徒のみの回答、保護者のみの回答、生徒と保護者両者の回答のいずれも回答数1として集計している。

[illegible]

《まとめ》

今回のアンケートでは、いじめとして認知されるものはなかった。しかし、障がい上の特性によってクラスメイトにぶつかったり、強くつかんでしまったり等、自分以外の児童生徒への理解を必要とする場面がある。また、療育センター内でのトラブルもあるため、引き続き各機関との連絡を密にし、いじめの未然防止に努め、早期発見と早期対応、組織的対応に力を入れていく。

本校ではインターネット(SNS)でのトラブルは発生していないが、他校では「ネットいじめ」等の社会問題は後を絶たない。インターネット利用実態調査では、家庭において児童生徒が使用可能なインターネット接続機器は年々増加しているという結果が表された。本校で力を入れているマナーアップ運動の中の情報モラルについての指導を引き続き継続し、社会で起きている様々なトラブル事案から未然防止対策を立てていかなければならない。

今後も更に児童生徒理解を進め、学級担任と保護者の間で連絡や相談を密に行い、より良い教育環境の整備に努めていく。